# 式　　辞

本日ここに、戦没者ご遺族の皆様並びにご来賓の皆様のご列席を賜り、令和八年度松戸市戦没者追悼式を執り行うに当たり、市民を代表いたしまして、謹んで哀悼の誠を捧げ、式辞を申し述べます。

先の大戦において、祖国を思い、愛する家族を案じながら、酷寒や炎暑の中で尊い命を落とされた戦没者の御霊、また、たび重なる空襲により犠牲となられた戦災犠牲者の皆様を思うとき、胸が締め付けられるような悲しみを覚えます。

最愛のご家族を失われたご遺族の皆様のご心痛を拝察するとき、いかなる言葉をもってしても慰めにはならないことを痛感いたします。

ご遺族の皆様が、幾多の困難や苦しみを乗り越え、今日まで歩んでこられたそのご足跡に深く敬意を表しますとともに、戦後の復興と今日の発展を支えてこられたこれまでのご尽力に対し、心から感謝を申し上げます。

戦没者並びに戦災犠牲者の御霊の御前に立つ今、追悼の思いは一層深まるばかりであります。

今日の私たちが享受している平和と繁栄は、これら尊い命

の犠牲の上に築かれたものであることを、私たちは決して忘れてはなりません。

　終戦から八十一年を迎え、昭和から平成、そして令和へと時代が移り変わる中、戦争を知らない世代が大多数を占めるようになり、戦争の記憶や体験が風化していくことが憂慮されております。なればこそ、歳月がいかに流れようとも、私たちは、この悲惨な戦争の記憶と教訓を次の世代へ確実に引き継いでいかなければなりません。

　世界に目を向けますと、今なお各地で争いが絶えず、多くの尊い命が失われております。松戸市が「世界平和都市宣言」を行ってから四十一年。戦没者諸霊が遺された尊い教訓を深く胸に刻み、再び悲しみの歴史を繰り返すことのないよう、平和への誓いを新たにし、世界の恒久平和の実現に向け、力を尽くしてまいります。

　結びに、戦没者並びに戦災犠牲者の御霊の安らかならんことを心よりお祈り申し上げますとともに、ご遺族の皆様のご健勝とご多幸を祈念申し上げ、式辞といたします。

令和八年九月二十六日

松戸市長　松戸　隆政